

長野県革新懇ニュース

2024年6月号
発行日6月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 00510-3-15971

297

発行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

====今号の主な記事====

- 1面 菊池幸彦さんインタビュー
- 2面 1面続き、「近現代信州の歴史回廊」村山隆さん
- 3面 介護報酬引き下げに懸念と怒りの声
読者の声、漢字パズル、講演会と総会のお知らせ
- 4面 「雨よ降れ」「自虐」と「自省」 窪島誠一郎さん
「写真で迎える信州と戦争」 北原高子さん
映画評論『オスカー・ピーターソン』 内山到さん

長野県革新懇

検索



1942年農家の長男として生まれる。1961年農業高校卒業、就農。1995年南牧村議会議員当選、2期。2007年11月南牧村長当選、2期。

安心、安全な食料は 日本の大地から

菊池 幸彦 さん

(元南牧村長)

住民こそ主人公の 村政をめざす

Q 村長としてどのような村政をめざしましたか？

私が村長になったのは2007年の11月で、2期8年務めました。基本姿勢として、「住民こそ主人公」という住民自治の原点を踏まえ、「対話で進める村づくり」をめざしました。婦人会や老人会、商工会、若妻会などの対話の中から生まれた要望を実現しました。老人対策では、障害者や高齢者の皆さんが住み慣れた地域ですつと一生過ごしたい、今は心配ないけど将来がとて不安だという声が出されました。そこで、近くに診療所がある野辺山駅前に障害者と高齢者が共同生活する施設を補助金を活用して

建てました。名前は公募で「希望の家」としました。利用者負担は年金の範囲内におさめました。

それから、お年寄りが健康診断や人間ドックで病院へ行くのが大変だということ、佐久病院に検診車を出してもらって、65歳以上の人を対象に「ご長寿ドック」という出張検診をやってもらいました。

また、旅館や民宿の業者からは、お客さんが減って困っているということだったので「ホットホッホ事業」という事業を始めました。それは、希望者が負担なしで村内の宿泊施設に集って、入浴したりお茶飲み話などをしながら1日ゆっくり楽しんでもらうというもので、これも補助金を活用しました。これは利用者にも宿泊業者にも大変喜ばれました。

子育て支援では妊婦検診が高すぎるという声が強かったので、1回につき15万円を補助しました。また、保育料が高いということで、近隣の保育料を調べてみたら確かに高かったので、村単独で保育料を20%引き下げました。

授業参観で校長先生に案内してもらい各教室を回り、子どもたちの教育の大切さを感じ、村費の先生を補充したりして教育環境を可能な限り整備しました。18歳までの医療費無料化は当時、先進的な施策でした。

国保税も凄く高かった。南牧村は農家や個人事業者が多いので税の仕組みではどうしても負担が高くなってしまいうわです。国民すべてがどこに住んでも公平な医療を受けられる権利があるわけで

すから、一般会計から2千万円位を繰り入れて引き下げました。国からクレームが来ましたが、法的には問題はないと続けました。小さな村の顔の見える自治体ならではの、百姓村長としての8年でした。

補助制度を活用し 農業の振興を図る

Q 農業政策ではどうですか？

南牧村は農業立村で、畜産と高原野菜が中心です。そこで農家と農協、行政と一緒に「農政懇談会」という会合を持ち、南牧村の農業について話し合いました。当面している課題は鳥獣被害だということだったので、その対策を講ずることにしました。防護柵設置に国の補助制度があり、その説明を聞くために職員を農水省に派遣したところ、3年間の時限措置で、総事業費の半分を国が持ち、残りは地元が負担する制度があることが分かりました。その頃は電気柵というのが主流だったんですが、経費が高く、管理が大変でした。そこで、コンクリート舗装に使用されるワイヤーメッシュを利用している農家に学び、全村総延長80キロメートルをぐるとつ囲みました。鹿の害がもの凄く減りました。総額2億6900万円でしたが、村が4分の1、あとの4分の1は財産区が負担したので、農家の直接の負担はありませんでした。

酪農家からは、毎日出る糞尿の処理に困っているという話が出ました。1日に凄く量



農業実習生による野菜の収穫風景

2021/07/14

が出るわけですが、これを野菜農家と連携して、畑に還元して良質な堆肥として利用できないか検討しました。しかし、試行錯誤、研究をしたけれども、私の任期中には残念ながら実用化はできませんでした。長期にわたる大事業は村単独では難しいということを痛切に感じました。

また、家畜の法定伝染病予防事業にも、村が独自に補助金を出しました。その他にも特産品の振興や、野菜の新商品の開発も行いました。「畑地帯土地開発総合事業」という県と国が補助金を出す事業があったので実施しました。対象となるのは農道と排水路の整備がメインで、それを畑

地帯に継続事業として取り入れて、今も継いでいます。この事業の成果はトラクターがどんどん大型化してきたので、それに対応できる道幅にできたことです。それに排水路も畑が全面マルチ栽培のため出水速度が速いので、大水处理に効果が大きく水害が減少しました。

このように国や県の有利な補助事業を積極的に活用して大きな事業を実施したので、村長就任当初は、基金(貯金)よりも起債(借金)の方が多かったのですが、8年間で逆転して村の健全な財政を築き上げることができました。

【2面に続く】